

信用と信頼

1. 過去を「信用」する、未来を「信頼」する

信用とは、何らかの実績や成果物を作成して、その出来栄えに対しての評価のことをいいます。そのため「信用」するためには、実績や成果物が必要不可欠なわけです。この実績や成果物といった、過去の業績に対して「信用」するのです。

一方「信頼」は、そうした過去の実績や業績、あるいはその人の立居振舞を見たうえで、「この人ならこの仕事を任せてもちゃんとしてくれるだろう」とか「この人なら私の秘密を打ち明けても大丈夫だろう」などと、その人の未来の行動を期待する行為や感情のことを指します。もちろん「信頼」するためには何らかの根拠が必要ですが、その根拠を見たうえで、未来を「信頼」するというわけです。

そう考えると、「信頼」してもらうためにはまず「信用」が必要です。「信用」なしには「信頼」を勝ち取るのは難しいでしょう。

2. 物理的に「信用」する、精神的に「信頼」する

俺を信じて

日々の暮らしは 貧しいけれど
俺には でっかい夢がある
お前や 子どもにや すまないが
もう少しの 辛抱だ
ここが峠の 胸つき八丁
この坂 越えれば
明るい 未来（あした）が 待っている

いつも耐えてる お前の笑顔
無邪気に はしゃぐ子どもたち
今は 何にも してやれないが
いつか 大きな幸せを
運んでやるさ この俺が
俺を信じて
俺を信じて ついて来い